

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2492700030		
法人名	医療法人桜木記念病院		
事業所名	グループホーム桜木さん・明和		
所在地	三重県多気郡明和町大字佐田沼2055		
自己評価作成日	平成29年6月15日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhou_detail_2016_022_kihon=true&JigvoNoCd=2492700030-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 29 年 7 月 18 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が安心して生活していただける場所であること。生活の中に楽しみを持っていただくこと。少しでも笑顔で過ごされること。この三点を基本指針とし、一方的な介護ではなく、出来ることはご自分でしていただき、その中でご自分の価値、役割を感じとっていただき、それが生活の糧となり自信を持っていただくことに繋がるように利用者様と向き合いたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して10年のグループホームで、周りは田園地帯で自然豊かな環境である。同一敷地内には、もう一つの1ユニットのグループホームとサービス付き高齢者住宅、通所介護が併設され、相互協力しあって運営がされている。母体は病院で、法人代表の理事長は定期的な往診のほか、ほぼ毎日、ホームを訪れ、様子を把握されている。集団生活であるが、できるだけ個別支援に努め、それぞれの生活歴を把握し、得意な事・出来る事の役割を見出し、生活に張りをもつ支援に努めている。ホーム独自の取り組み「足神様」を祀り、歩行訓練等々利用者の意識向上に役立てているが、さらに2階への階段に「安眠神様」を祀って、眠れないのを解消しようと取り組んでいる。管理者・介護支援専門員の両輪で職員間チームワークよく運営がされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型の意義の理解に努め(尊び心から尽くし介護させていただく)を理念とし、毎朝の申し送り、全体会議に唱和し、行動理念の構築と定着に努めている。	”安心・楽しみ・笑顔”を3本柱に介護に努めている。朝、出勤したら、まず利用者に「おはよう」の挨拶を笑顔ですることから始まり、そばに寄り添い、一人ひとりの個別支援が大事と考え実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加、施設行事への招待、保育園、中学との交流など。また自治会に加入し、自治会活動に参加しています。	自治会に加入し、地域での共同作業に参加をしている。事業所合同の夏祭りには地域の方にも案内状を配り、大勢の参加がある。中学生の福祉体験教室の協力、隣の保育園児との交流、ボランティアの受け入れなど幅広く交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設への実習生の受け入れや施設体験、地域住民の見学会を行い、認知症への理解、支援に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回会議を開き、利用者家族、町担当者、地域包括支援センター、自治会、民生委員、消防署等と話し合い、意見交換をしている。また施設行事への参加、取り組み事項の体験等参加していただいている。	年6回、偶数月に開催をしている。参加者が固定化して、昨年度、目標達成計画で参加者を幅広く要請するよう提案を受け、消防署・中学校長・保育園へ参加要請をした。消防署長による熱中症予防の話を聴くことが出来た。	さらに老人会や婦人会など地域を代表する方の参加を求め、地域密着型のホームの充実をはかるよう期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域連携推進会議に出席し、町、地域包括支援センター、他事業所と情報交換やコミュニケーションに努めている。	明和町では地域包括支援センターの主催で地域連携推進会議が毎月開催されている。多業種の職員が参加をして、福祉介護事業所の情報交換・研修などが行われており、参加をしている。生活保護の利用者が入居して、行政との関わりがある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を理解し、市町への連絡、家族への説明を十分に行い、文書にて同意を得ている。病院協力による勉強を定期的に行い、拘束に対する意識を高めている。	現在、身体拘束にいたる利用者はいない。母体の病院で研修が開催され、代表が参加して、後日、伝達講習をして全職員に周知している。ヒヤリハットは常時活用し、誰もが案件にかかわっていると視点からケアの見直しに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	母体の法人より講師を招いての勉強会を開き、また職員間での会議等により意識向上を図り、より一層の虐待防止に努めたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に利用されている利用者もおられ、社会福祉協議会と連携し必要な支援を現在おこなっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、必ず管理者が重要事項を説明し、同意の上での契約締結としている。特に重度化した際の対応、急変時、看取りに関しては重点的に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者を良く観察し、得た内容をケース記録、日誌で共有している。また家族からの意見、要望、苦情があった場合、運営者、管理者に報告し、問題解決、運営改善に役立っている。	面会時や電話で家族とコミュニケーションをとっている。どんな事でもきちんと聞いて改善につなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員全体会議、リーダー会議、個別面談を開き、問題点の提起、改善に反映させている。	管理者・介護支援専門員は、職員からいつもその都度、思いや悩みを聞くよう心掛けている。職員からも忌憚なく相談をしている。備品の買い替えなど、高額にいたることもあり、電子レンジが壊れ、新品を購入するまでの間、管理者が自宅用を代替したこともあった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやりがいをもって就業出来るような職場環境、条件の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体の病院の(生涯学習ポイント制度)により、それぞれの職員に応じた研修を受けることを推進している。またそれが評価の対象になっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域連携推進会議や勉強会に積極的に参加できるよう、環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面談時に出来る限り、本人の不安、希望、要望を聞き、受け止める努力をする。また初期は、本人に寄り添い、信頼関係構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の施設見学、面談で家族が困っていること、要望をお聞きし、出来る限り話し合い、その中で信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の要望、本人の希望から、まず必要となるサービスを見極める。また前施設とも連携し、ほかのサービスも含めた対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は一方的に介護するのではなく、本人ができることはして頂き、一緒に生活し、お互いが助け合っているという意識で支援にあたっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員と家族をチームと考え、コミュニケーションを密にとり、利用者の状況を共有して支援にあたっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の意向を伺いながら、馴染みの方が訪問しやすい支援をしていく。また可能であれば馴染みの場所へ行ける支援をしていく。	同級生の訪問があったり、入所前からの文通が続いている方もある。併設の事業所の利用者とは交流があり、お互いに顔なじみになっている。花見や買い物は利用者の楽しみで希望に応じて支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立したり、他の利用者との間でストレスが生じない様、利用者同士の関係を注意深く観察するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があれば随時対応できるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族の希望や意向を入所時や面会時に聞き取り、期待に添えるような支援をする。意思疎通困難な方に対しては、行動や生活の中からニーズを把握し、カンファレンスでの検討を実施している。過去歴から情報を集め、気づきノートに記す事で共通認識している。	寄り添う介護を目指しており、その時々のお話から聞いた思いや意向は、業務日誌に記録をして職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者、家族から過去の生活状態、趣味、思い出、これまでのサービス経過等聞き、把握して今後の施設での支援、生活に反映させられるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者にてできる限り寄り添い、一日の生活状態、行動に起因する精神状態等をきめ細かく観察し、利用者の現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の希望、要望、現状をカンファレンスで話し合い、共有し、家族に日々の様子を伝え、家族の意見、要望を伺いケアプランに取り入れている。また主治医、看護師、理学療法士等の意見もケアプランに取り入れている。	月に1回、カンファレンスを実施している。利用者ごとのマニュアルがあり、毎週月曜日に見直し、介護支援専門員に報告し、変化を確認している。状態に応じて、看護職や理学療法士、言語聴覚士などの専門職が母体の病院から派遣され計画書の作成に活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践結果等は個別の介護経過に記録し、新たな気付、工夫があった場合はミーティングを開き、意見を出し合い、それを共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多職種が連携し、生活支援、健康管理、機能訓練、病院受診、訪問診療、訪問看護等、ニーズに合わせて迅速に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族様、自治会、社協からのボランティアの紹介や、地域の保育園、小学生、中学生の慰問、体験を通じてのふれあい等、情緒を豊かにし、精神的満足感を味わっていただける様務めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医に、入所後も見ていただけるように、施設への往診を含め、主治医、家族と相談調整している。	母体の病院が全員のかかりつけ医になっている。居宅療養管理による院長による往診が月2回あり、三重大総合診療の医師が母体病院からの要請で週2回往診している。また、ほぼ毎日、院長が来訪して利用者の状態を把握している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の健康管理、異常発生時、緊急時に迅速に対応出来る体制は整っており適切に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護サマリーの提供、生活情報の伝達、入院中には医師、看護師から病状、変化を聞き、退院後の施設での生活がスムーズに行えるように、病院関係者と密に連携を図るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の意向を確認、記録し、多職種が連携し、最良の支援ができるようにしている。また看取りの場合にも病院と作製した指針を設け、家族の意向に沿った支援体制を整えている。	看取りをする方針である。この一年間で2名の方の看取りをした。指針は病院で作成している。医療との連携が充実しており、医師の指示で家族と話し合い、その人にあった終末期ケアを実施している。看取りの勉強会は病院で行われており、参加をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作り、職員に観覧できるようにしている。また、消防署、病院の指導による応急手当、急変時対応訓練を定期的実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防火、防災訓練の実施している。また運営推進会議に消防署の関係者に来て頂き、いろんな角度からの対策を学んでいる。また町、他施設との情報交換も地域連携推進会議を通じて行い、自施設に役立てている。	年に2回、併設の事業所合同で防災訓練を実施している。明和町でも近年は、地震に対する防災に力を入れており、連絡網の充実、起こりうることに對する準備(備蓄など)、レベルに合わせた訓練、役割分担など現状に即した指導が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	まず、人として人生の先輩として尊重し、愛情を持った声かけ、対応を心がけています。また利用者のプライバシーには十分に配慮している。	利用者は人生の先輩で、尊厳をもって接するよう心掛けている。個別支援が大事と考え、その日、その時の気分を考慮し、したい事・したくない事を介護する側の都合で決めつけないように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	家族からの情報を参考にしながら、毎日の生活の中での表情、会話の中で、自己決定や希望を引き出せるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設の一日の流れはあるが、利用者の希望、要望を尊重し、個人のペースを重視するように考えて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は基本にご自分で選んでもらっています。また、お化粧品も自由にさせていただき、おしゃれを楽しんでいただいている。ご自分で選べない方には、職員がその方に合った服装を季節に合わせて選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る限り、利用者の好みを取り入れ、季節感のあるメニューにしている。誕生日、行事には特別メニューや外食を楽しんで頂いたり、施設の畑で、野菜の収穫から料理までを利用者と職員で協力して行っている。	献立は病院の管理栄養士が作り、アレンジを加えながら食事が提供されている。利用者・職員が作った家庭菜園で収穫した野菜は食材として使っている。誕生日には特別メニューである。ホットプレートを使った調理は利用者の楽しみでもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護職員、医師、栄養士と連携して、一人一人に合わせた食事形態、調理方法をとっている。また水分量、食事量のチェックを毎食ごとに行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員が声かけし、毎食ごとに口腔ケアをしている。困難な場合には、利用者の状況に合った支援をしている。家族の要望で、歯科医師の口腔ケア往診も実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間シートを活用し、排泄リズムやパターンを観察、記録し、職員同士で認識できるようにしている。また本人の負担にならない様、さり気なく声かけ、見守り、介助をさせて頂く支援をしている。	布パンツやリハビリパンツにパットなど状態に応じて使用している。パターンから排泄の時間を把握し、トイレで排泄するよう支援をしている。夜間はおむつ使用の方もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、運動(散歩、体操、レクリエーション)を心掛け、食物繊維を多く含んだ食品をメニューに取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	無理強いせず、利用者の希望、気分、体調を考慮し、リラックスしていただくように音楽、入浴剤等を用いて、入浴を楽しんでいただける様支援している。	毎日風呂は沸かして、一日4人が入浴しており、午後から入浴タイムになっている。湯は毎回入れ替えている。演歌・童謡・クラシック等々、DVDで音楽を流して入浴が楽しみな時間になるよう工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の状況を、好み、入所前の環境を考慮し、ベッド、ソファー、畳で休んでいただける様に、個別に対応する支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を作成し、全職員が確認できるようにしている。また薬剤の変更があった場合は、日誌、申し送りノート、毎朝の申し送りで、全職員が周知出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理の準備、あとかたづけ、掃除、洗濯等日常生活の経験を生かした役割を持っていただき、それが生活の張りに繋がるように支援し、畑仕事や花づくり、動物の世話などの中に楽しみを持ってもらえるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買い物、ドライブ、外食等、家族の協力も得ながら支援している。また桜、藤、紫陽花、コスモス等、季節ごとにお花見会も行い、楽しまれています。	散歩に出かけ、外気浴もホームの庭のベンチに座ってしている。併設の事業所の利用者と一緒にひと時を過ごすこともある。買い物や花見も利用者の楽しみになっているので、できるだけ実現できる支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理のできる利用者には、個人で財布を所有されている場合もあり、買い物時には同行し、希望のものを購入していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかける、受ける支援は随時行っている。また手紙の投函等を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い共有空間の中、安心して、リラックスした生活ができるよう、また自由に生活していただけるような環境作りに努めている。	窓から、田んぼからの涼やかな風が吹き込み、カエルの合唱、麦秋などから自然が五感を刺激してくれる環境である。1階、2階とも同じような作りで、壁には利用者の習字や貼り絵などの作品が展示してある。「足神様」「安眠神様」は利用者のそれぞれの願いが叶うよう祀られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者一人一人のプライバシーに配慮して、一人になりたい時には居室で過ごしていただき、フロアーに於いても、自由に過ごしていただけるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談し、安全面を考慮しながら、自宅で使われていた家具や生活用品を持ち込んでいただき、自宅同様に安心して過ごしていただけるように努めている。	クローゼットが配備され収納している。衣装ケースや椅子、テレビ、仏壇など思い思いのものが持ち込まれ、自分らしい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者個人の残存機能を生かし、可能な範囲で出来ることをしていただくように努めている。また施設内はバリアフリーで、フロアー、浴室、廊下、トイレには手すりを設置して、安全面を考慮している。		